

S98P0650 W006  
09/242488  
PCT/JF98/02742

19.06.98

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

REC'D	07 JUL 1998
WIPO	PCT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

1997年 6月19日

出 願 番 号

Application Number:

平成 9年特許願第162405号

出 願 人

Applicant (s):

ソニー株式会社

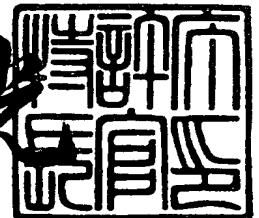
PRIORITY  
DOCUMENT

SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

1998年 4月 3日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Patent Office

荒井 寿光



出証番号 出証特平10-3024893

特平 9-162405

【書類名】 特許願

【整理番号】 S970303383

【提出日】 平成 9年 6月19日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 7/14

【発明の名称】 情報受信装置および方法、並びに提供媒体

【請求項の数】 6

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 新谷 ピーター

【特許出願人】

【識別番号】 000002185

【氏名又は名称】 ソニー株式会社

【代表者】 出井 伸之

【代理人】

【識別番号】 100082131

【弁理士】

【氏名又は名称】 稲本 義雄

【電話番号】 03-3369-6479

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 032089

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9102454

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 情報受信装置および方法、並びに提供媒体

【特許請求の範囲】

【請求項1】 伝送されてくる番組を受信する受信手段と、  
前記受信手段が受信した番組が、視聴者の応答を要求する応答番組であるか否かを判定する判定手段と、  
前記応答番組の応答要求に対する視聴者の応答に対応してポイントを演算する演算手段と、  
前記受信手段が受信した番組が前記応答番組であるとき、その応答番組を特定する特定情報と、少なくとも前記演算手段が演算したポイントを記録させる記録手段と  
を備えることを特徴とする情報受信装置。

【請求項2】 前記記録手段は、視聴者の応答内容も記録させることを特徴とする請求項1に記載の情報受信装置。

【請求項3】 前記記録手段の記録内容を伝送する伝送手段をさらに備えることを特徴とする請求項1に記載の情報受信装置。

【請求項4】 前記番組が有料番組であるか否かを判定する第2の判定手段と、

前記番組が有料番組であるとき、前記記憶手段に記憶されているポイントに対して課金に関する処理を行う処理手段と

をさらに備えることを特徴とする請求項1に記載の情報受信装置。

【請求項5】 伝送されてくる番組を受信する受信ステップと、  
前記受信ステップで受信した番組が、視聴者の応答を要求する応答番組であるか否かを判定する判定ステップと、

前記応答番組の応答要求に対する視聴者の応答に対応してポイントを演算する演算ステップと、

前記受信ステップで受信した番組が前記応答番組であるとき、その応答番組を特定する特定情報と、少なくとも前記演算ステップが演算したポイントを記録させる記録ステップと

を備えることを特徴とする情報受信方法。

【請求項6】 伝送されてくる番組を受信する受信ステップと、  
前記受信ステップで受信した番組が、視聴者の応答を要求する応答番組である  
か否かを判定する判定ステップと、

前記応答番組の応答要求に対する視聴者の応答に対応してポイントを演算する  
演算ステップと、

前記受信ステップで受信した番組が前記応答番組であるとき、その応答番組を  
特定する特定情報と、少なくとも前記演算ステップが演算したポイントを記録さ  
せる記録ステップと

を備えるプログラムを提供することを特徴とする提供媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、情報受信装置および方法、並びに提供媒体に関し、特に、応答番組  
の応答要求に対する視聴者の応答に対応してポイントを演算し、このポイントを利用  
することにより、番組を確実に視聴者に視聴させることができるようにした  
、情報受信装置および方法、並びに提供媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】

最近、テレビジョン放送がデジタル化され、極めて多くのチャンネルの番組が  
視聴者に提供されるようになってきた。従って、視聴者は、多くの番組の中から  
所望の番組を選択して視聴することができる。

【0003】

一方、番組の提供者（放送局）は、所定の商品を宣伝するコマーシャル番組を  
視聴者に提供し、宣伝するその商品の提供者（製造者または販売者）から、その  
対価を受け取るようにしている。これにより、視聴者は、無料で番組を視聴する  
ことができる。また、商品の提供者は、そのコマーシャル番組で、その提供する  
商品を視聴者に宣伝することができる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、一般的に、視聴者は、コマーシャル番組の放送が開始されると、トイレにいつてしまったり、チャンネルを切り替えてしまったりすることが多く、コマーシャル番組の提供者は、その商品を確実に視聴者に宣伝することができない課題があった。

【0005】

本発明はこのような状況に鑑みてなされたものであり、コマーシャル番組を確実に視聴者に視聴させることができるようにするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】

請求項1に記載の情報受信装置は、伝送されてくる番組を受信する受信手段と、受信手段が受信した番組が、視聴者の応答を要求する応答番組であるか否かを判定する判定手段と、応答番組の応答要求に対する視聴者の応答に対応してポイントを演算する演算手段と、受信手段が受信した番組が応答番組であるとき、その応答番組を特定する特定情報と、少なくとも演算手段が演算したポイントを記録させる記録手段とを備えることを特徴とする。

【0007】

請求項5に記載の情報受信方法は、伝送されてくる番組を受信する受信ステップと、受信ステップで受信した番組が、視聴者の応答を要求する応答番組であるか否かを判定する判定ステップと、応答番組の応答要求に対する視聴者の応答に対応してポイントを演算する演算ステップと、受信ステップで受信した番組が応答番組であるとき、その応答番組を特定する特定情報と、少なくとも演算ステップが演算したポイントを記録させる記録ステップとを備えることを特徴とする。

【0008】

請求項6に記載の提供媒体は、伝送されてくる番組を受信する受信ステップと、受信ステップで受信した番組が、視聴者の応答を要求する応答番組であるか否かを判定する判定ステップと、応答番組の応答要求に対する視聴者の応答に対応してポイントを演算する演算ステップと、受信ステップで受信した番組が応答番

組であるとき、その応答番組を特定する特定情報と、少なくとも演算ステップが演算したポイントを記録させる記録ステップとを備えるプログラムを提供することを特徴とする。

【0009】

請求項1に記載の情報受信装置、請求項5に記載の情報受信方法、および請求項6に記載の提供媒体においては、応答番組の応答要求に対する視聴者の応答に対応してポイントが演算され、そのポイントが、その応答番組を特定する特定情報とともに記録される。

【0010】

【発明の実施の形態】

以下に本発明の実施の形態を説明するが、特許請求の範囲に記載の発明の各手段と以下の実施の形態との対応関係を明らかにするために、各手段の後の括弧内に、対応する実施の形態（但し一例）を付加して本発明の特徴を記述すると、次のようになる。但し勿論この記載は、各手段を記載したものに限定することを意味するものではない。

【0011】

請求項1に記載の情報受信装置は、伝送されてくる番組を受信する受信手段（例えば、図1のチューナ2）と、受信手段が受信した番組が、視聴者の応答を要求する応答番組であるか否かを判定する判定手段（例えば、図2のステップS2）と、応答番組の応答要求に対する視聴者の応答に対応してポイントを演算する演算手段（例えば、図2のステップS5）と、受信手段が受信した番組が応答番組であるとき、その応答番組を特定する特定情報と、少なくとも演算手段が演算したポイントを記録させる記録手段（例えば、図2のステップS6）とを備えることを特徴とする。

【0012】

請求項3に記載の情報受信装置は、記録手段の記録内容を伝送する伝送手段（例えば、図1のモデム11）をさらに備えることを特徴とする。

【0013】

請求項4に記載の情報受信装置は、番組が有料番組であるか否かを判定する第

2の判定手段（例えば、図2のステップS8）と、番組が有料番組であるとき、記憶手段に記憶されているポイントに対して課金に関する処理を行う処理手段（例えば、図2のステップS12）とをさらに備えることを特徴とする。

【0014】

図1は、本発明を適用したデジタルテレビジョン放送受信装置の構成例を表している。チューナ2は、アンテナ1を介して所定のチャンネルのデジタルテレビジョン放送を受信し、その復調信号を出力するようになされている。FEC回路3は、チューナ2より供給された信号の誤り訂正を行い、トランスポート回路4に出力するようになされている。トランスポート回路4は、FEC回路3より入力された信号から映像データV、左右の音声データA<sub>L</sub>、A<sub>R</sub>、制御データを分離し、映像および音声データをMPEGデコーダ5に出力するとともに、視聴者の放送受信契約の内容などに関するコンディショナルアクセスに関するデータを含む制御データをコンディショナルアクセスインタフェース9に出力するようになされている。

【0015】

MPEGデコーダ5は、入力された映像データと音声データをデコードし、ディスプレイプロセッサ6に出力するようになされている。ディスプレイプロセッサ6は、入力された映像データと音声データを処理し、アナログビデオ信号と音声信号に変換して、ディスプレイ7Aとスピーカ7Bに出力するようになされている。

【0016】

コンディショナルアクセスインタフェース9には、スマートカード10を装着することができるようになされている。このスマートカード10には、視聴者の契約内容に関する情報や、有料番組の課金処理に関する情報などが記憶されるようになされている。

【0017】

マイクロプロセッサ8は、各部を制御し、受信処理を実行させるようになされている。モデム11は、電話回線を介して各種のデータやコマンドを授受することができるようになされている。

【0018】

IR受信部12は、テンキー32の他、各種のキーを有するリモートコントローラ31のIR送信部33から送信されるIR信号を受信し、その検出信号をマイクロプロセッサ8に出力するようになされている。視聴者は、リモートコントローラ31の各種のキーを操作して、マイクロプロセッサ8に各種の指令を入力することができる。

【0019】

次に、図2のフローチャートを参照して、その動作について説明する。視聴者は、番組を視聴するとき、例えば、テンキー32を操作し、受信するチャンネルを指定する。リモートコントローラ31のIR送信部33から、この指定したチャンネルに対応するIR信号が発生される。マイクロプロセッサ8は、IR受信部12を介してこの信号を受信すると、指定されたチャンネルの受信をチューナ2に指示する。チューナ2は、指定されたチャンネルの電波を受信して、その復調信号を出力する。FEC回路3は、入力されたチャンネルの信号の誤り訂正処理を行った後、そのデータをトランスポート回路4に出力する。

【0020】

トランスポート回路4は、入力されたデータから制御データを分離し、これをコンディショナルアクセスインタフェース9を介してスマートカード10に出力する。スマートカード10は、トランスポート回路4より入力された制御データのうちのコンディショナルアクセスデータを、予め記憶されている視聴者の契約条件と照合し、視聴が許可されている番組であるか否かを判定する。そして、視聴が許可されている番組である場合には、コンディショナルアクセスインタフェース9を介してトランスポート回路4を制御し、FEC回路3より入力されたデータに、暗号化、インタリーブなどの処理が行われている場合には、復号化、デインタリーブなどの処理を行わせる。

【0021】

MPEGデコーダ5は、トランスポート回路4より供給された映像データと音声データをデコードし、ディスプレイプロセッサ6に出力する。ディスプレイプロセッサ6は、入力された映像データと音声データとを処理し、アナログビデオ信号



と音声信号に変換して、ディスプレイ7Aとスピーカ7Bに出力する。

【0022】

このような受信処理が行われているとき、コンディショナルアクセスインタフェース9は、図2のフローチャートに示すような処理を実行する。最初にステップS1において、チューナ2が、いま受信している番組がコマーシャル番組であるか否かを判定する。なお、この明細書においては、ドラマ、ニュース、映画などの番組の他、所定の商品、サービスなど（以下、単に、商品という）を視聴者に宣伝するコマーシャルも番組の1つとして説明する。

【0023】

いま受信している番組がコマーシャル番組である場合には、ステップS2に進み、コンディショナルアクセスインタフェース9は、そのコマーシャル番組が、視聴者に対して応答を要求する番組であるか否かを判定する。コマーシャル番組が応答要求番組であるか否かは、番組の送出側において、応答要求番組であるか否かを示すフラグを送出するようにすれば、受信側において、このフラグから判定することができる。コンディショナルアクセスインタフェース9は、いま受信している番組が応答要求番組である場合には、ステップS3において、スマートカード10の内蔵するメモリに、いま受信しているコマーシャル番組のIDを記憶させる。

【0024】

応答要求番組においては、商品を宣伝する画像が表示された後、例えば、図3に示すように、「この商品がお好きな方は番号5を押して下さい」のようなメッセージが表示される。視聴者は、このメッセージに応答する場合、リモートコントローラ31のテンキー32のうちの番号5のキーを操作する。リモートコントローラ31のIR送信部33から、この番号5のキーに対応する信号がIR信号として出力される。この信号は、IR受信部12で受信され、マイクロプロセッサ8に、その検出信号が供給される。マイクロプロセッサ8は、この検出信号が入力されたとき、番号5のキーが操作されたことを示す信号をコンディショナルアクセスインタフェース9に出力する。

【0025】

コンディショナルアクセスインタフェース9は、ステップS4において、マイクロプロセッサ8からの信号をモニタすることにより、視聴者は、コマーシャル番組の応答要求に対応して、応答を行ったか否かを判定する。応答を行ったと判定した場合には、ステップS5に進み、コンディショナルアクセスインタフェース9は、スマートカード10に記憶されているポイントに所定の値を加算させる。視聴者が、コマーシャル番組の応答要求に対して応答しない場合には、ステップS5のポイント加算処理はスキップされる。なお、場合によっては、視聴者が応答要求に対して応答しない場合には、ポイントを加算しないだけでなく、積極的にポイントを減算するようにすることもできる。

【0026】

次にステップS6に進み、コンディショナルアクセスインタフェース9は、視聴者の応答内容をスマートカード10に記録させる。ステップS7では、コマーシャル番組における応答要求が終了したか否かが判定され、終了していない場合には、ステップS4に戻り、それ以降の処理が繰り返し実行される。応答要求が終了したと判定された場合、ステップS1に戻り、それ以降の処理が繰り返し実行される。

【0027】

このほか、例えば、コマーシャル番組の中で、その商品に関する応答の操作をした視聴者の年齢の入力を要求したり、好みの色を選択入力させたりして、いわゆるアンケートに対して回答させ、その応答結果をスマートカード10に記録させることができる。

【0028】

ステップS1において、いま受信している番組がコマーシャル番組ではないと判定した場合、コンディショナルアクセスインタフェース9はステップS8に進み、いま受信している番組が有料番組であるか否かを判定する。いま受信している番組が有料番組ではない場合、ステップS1に戻る。従って、無料の通常の番組が放送されている場合には、ステップS1とステップS8の処理が繰り返し実行されることになる。

## 【0029】

ステップS8において、いま受信しているのが有料番組であると判定された場合、ステップS9に進み、コンディショナルアクセスインタフェース9は、スマートカード10に現在記憶されているポイントを読み出させ、例えば、図4に示すように、「このポイントを有料放送の支払いに利用しますか？」のようなメッセージとともに、ディスプレイ7Aに表示させる。視聴者は、ステップS10で、現在のポイントを有料放送の支払いに利用するか否かを判断し、利用する場合には、ステップS11において、リモートコントローラ31のテンキー32のうち、YESに対応する番号1のキーを操作し、有料放送の支払いに利用しない場合には、ステップS14において、NOに対応する番号3のキーを操作する。

## 【0030】

ポイントを有料放送の支払いに利用するとの入力となされた場合には、ステップS12において、現在のポイントから有料放送の料金に対応するポイントを相殺する処理が実行される。すなわち、コンディショナルアクセスインタフェース9は、スマートカード10に記憶されている現在のポイントから、いま視聴しようとしている有料放送の料金に対応するポイントの分だけ減算させる。例えば、現在のポイントが250点であり、その番組料金に対応するポイントが50点である場合、新たなポイントは200点とされ、その番組の料金に対応するポイントが300点である場合、新たなポイントは-50点とされる。

## 【0031】

次にステップS13で、更新後のポイントが0より大きいかが判定され、大きい場合、ステップS15の課金処理が行われず、ステップS1に戻る。

## 【0032】

更新後のポイントが0より大きくない場合（負である場合）、またはステップS14の処理の次にステップS15に進み、有料番組の料金に対する課金処理が実行される。このとき、コンディショナルアクセスインタフェース9は、ステップS14において、ポイントを有料放送の支払いに利用しないとの入力となされている場合には、通常の課金処理を実行する。すなわち、いま視聴している有料放送の番組の料金を、スマートカード10に記憶されている、それまでの受信料

金に加算する。これに対して、ポイントによる有料放送の料金の相殺が行われ、更新後のポイントがマイナスである場合には、そのマイナスのポイントに対応する分だけ料金の加算が行われる。

【0033】

以上のようにして、視聴者は、コマーシャル番組の応答要求に対して応答するとポイントが加算され、その加算されたポイントの分だけ、有料番組を安く視聴することができるようになる。

【0034】

このようなサービスは、コマーシャル番組における応答要求に対して応答しない限り受けることができない。例えば、コマーシャル番組を単に見ているだけ、あるいはビデオテープに録画しているだけでは、このサービスを受けることができない。しかも、応答要求は、コマーシャル番組の中でいつ行われるか不明であるため、視聴者は、コマーシャル番組を始めから終わりまで視聴しない限り、このサービスを受けることができないことになる。その結果、コマーシャル番組の提供者は、コマーシャル番組を視聴者に確実に視聴させることができることになる。

【0035】

次に、図5のフローチャートを参照して、有料番組の課金処理について説明する。番組提供者は、ステップS31において、所定の視聴者のスマートカード10に記憶されている課金データの読み出しを指令する。この指令は、例えば、所定の視聴者を特定するIDを放送することで行ったり、電話回線を介して行うことができる。電波を介して課金データの読み出しを指令した場合、トランスポート回路4を介してコンディショナルアクセスインタフェース9に、その読み出し指令が供給される。電話回線を介して、この読み出し指令が出力された場合、モデム11からマイクロプロセッサ8に、この指令が入力される。マイクロプロセッサ8は、この指令をコンディショナルアクセスインタフェース9に出力する。

【0036】

コンディショナルアクセスインタフェース9は、このようにして、課金データの読み出しが指令されると、スマートカード10に記憶されている、それまでの課

金データを読み出し、これをマイクロプロセッサ8に出力する。マイクロプロセッサ8は、課金データの入力を受けるとモデム11を制御し、電話回線を介して読み出し指令者にこれを伝送させる。番組提供者側においては、ステップS32において、この課金データを受信する。そして、ステップS33において、受信した課金データに対応する課金処理を実行する。例えば、課金データに対応する請求書をその視聴者に発行したり、クレジットカードによる決裁処理を行う。

#### 【0037】

また、番組提供者は、図6のフローチャートに示すような処理を行うことにより、スマートカード10に記録された応答データを収集することができる。最初にステップS41において、応答データ読み出し指令が所定の視聴者に出力される。この読み出し指令は、図5のステップS31の課金データ読み出し指令と同様に、電波または電話回線を介して出力することができる。この指令に対応して、受信側においては、コンディショナルアクセスインタフェース9が、スマートカード10に記憶されている応答データ（図2のステップS6で記録されたデータ）を読み出し、これをマイクロプロセッサ8に出力する。マイクロプロセッサ8は、モデム11を制御し、この応答データを電話回線を介してコマーシャル番組提供者に伝送させる。コマーシャル番組提供者側においては、ステップS42で、この応答データを受信する。そして、ステップS43において、ステップS42で受信した応答データを処理する。

#### 【0038】

上述したように、この応答データには、コマーシャル番組を介して行ったアンケートの結果が含まれている。そこで、コマーシャル番組提供者は、このアンケートに対する回答を分析することで、そのコマーシャル番組を視聴した世帯数の他、その商品に対して興味をもっている視聴者の年代、男性女性の区別、といった細かいデータを得ることができる。また、アンケートの内容によっては、最近の視聴者の嗜好、傾向なども分析することができる。このような情報は、番組提供者側において、新たな商品の開発に利用したり、必要に応じて、その情報そのものを第三者に提供することもできる。

【0039】

なお、このようなデータ収集は、課金処理と同時に行うようにしてもよい。

【0040】

コマーシャル番組提供者は、このように、コマーシャル番組を確実に、視聴者に視聴させることができるだけでなく、応答データを収集し、分析することができる。

【0041】

上記処理例においては、ポイントを有料番組の料金に充足させるようにしたが、例えば、商品を視聴者にプレゼントするようにすることもできる。図7は、この場合の処理例を表している。

【0042】

最初にステップS51において、視聴者は、リモートコントローラ31の所定のキーを操作して、スマートカード10に記憶されている現在のポイントの読み出しを指令する。コンディショナルアクセスインタフェース9は、マイクロプロセッサ8を介してこのポイント読み出しの指令が入力されたとき、ステップS52において、スマートカード10に記憶されているポイントを読み出し、ディスプレイ7Aに、例えば、図8に示すように表示させる。このとき、ポイントと、そのポイントによりプレゼント受けることができる商品が表示される。図8の表示例においては、ポイント数が125点であり、このポイントで選択できる商品は、カメラ、ビデオデッキ、またはCDプレーヤであることが表示されている。

【0043】

視聴者は、この表示を見て、ステップS53で、所望の商品を選択する。例えば、図8の表示例では、カメラを希望する場合、リモートコントローラ31のテンキー32のうち番号1のキーを操作し、ビデオデッキを希望する場合、番号2のキーを操作し、CDプレーヤを希望する場合、番号3のキーを操作する。

【0044】

コンディショナルアクセスインタフェース9は、マイクロプロセッサ8を介して商品を選択する信号が入力されたとき、ステップS54において、その選択された商品が、視聴者により希望されたことを示すデータを送出する処理を実行す

る。すなわち、このとき、コンディショナルアクセスインタフェース9は、マイクロプロセッサ8を制御し、このデータをモデム11から電話回線を介して、コマーシャル番組提供者に送出させる。コマーシャル番組提供者は、このデータの送出を受けたとき、その視聴者にその商品を配送する処理を行う。

【0045】

このほか、例えば、スマートカード10に記憶されているポイントを、各種商品の販売店において、クーポンに変換してもらい、その販売店において販売している所望の商品を、視聴者が購入するのに利用してもらうようにすることもできる。

【0046】

上記実施の形態においては、モデム11を利用して電話回線を介して、番組提供者側とデータを授受するようにしたが、双方向のチャンネルを有するケーブルテレビジョンシステムなどにおいては、上り方向のチャンネルを利用して、データを番組提供者側に伝送するようにすることができる。

【0047】

また、ポイントをスマートカード10に記録するようにしたが、上り方向のチャンネルがある場合、放送局側でポイントを記録するようにしてもよい。

【0048】

スマートカード10としては、PCMCIA (Personal Computer Memory Card International Association) のカード、その他のカードを用いることができる。

【0049】

また、上記実施の形態においては、コマーシャル番組で視聴者に対して応答を要求するようにしたが、この番組は、コマーシャル番組に限らず、各種の番組とすることも可能である。

【0050】

以上、本発明をデジタルテレビジョン信号受信装置に応用した場合を例として説明したが、本発明は、その他の情報受信装置にも応用することが可能である。

【0051】

【発明の効果】

以上の如く、請求項1に記載の情報受信装置、請求項5に記載の情報受信方法、および請求項6に記載の提供媒体によれば、応答番組の応答要求に対する視聴者の応答に対応してポイントを演算し、そのポイントを記録するようにしたので、視聴者に、確実に番組を視聴させることができるとともに、視聴者側においても、このポイントを利用して、より低料金で番組の提供を受けるようなことが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明を適用したデジタルテレビジョン信号受信装置の構成例を示すブロック図である。

【図2】

図1の実施の形態の動作を説明するフローチャートである。

【図3】

図1のディスプレイ7Aにおける表示例を示す図である。

【図4】

図1のディスプレイ7Aにおける表示例を示す図である。

【図5】

図1の実施の形態の課金処理を説明するフローチャートである。

【図6】

図1の実施の形態の応答データ処理を説明するフローチャートである。

【図7】

図1の実施の形態の商品選択処理を説明するフローチャートである。

【図8】

図7のステップS52における表示例を示す図である。

【符号の説明】

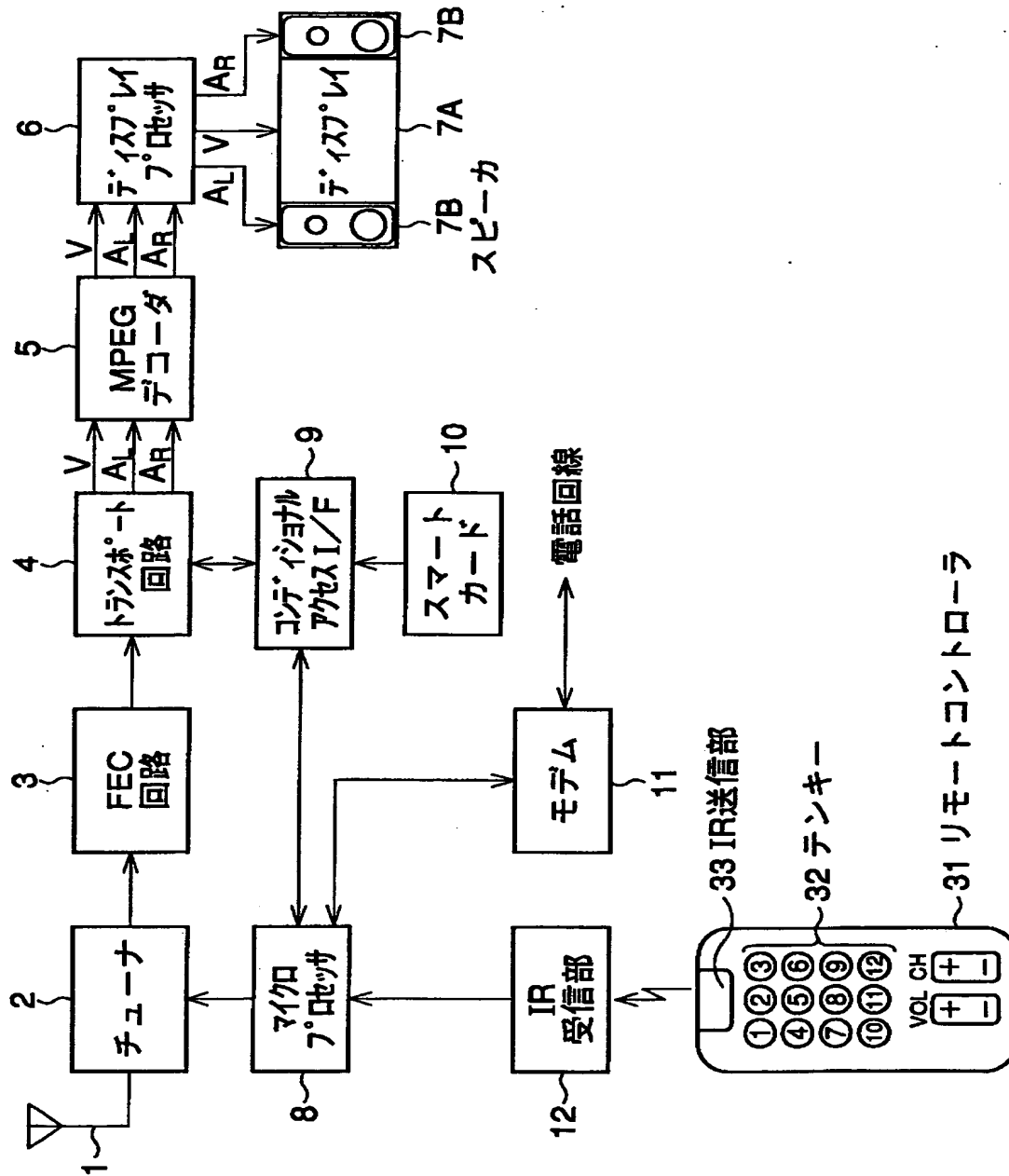
2 チューナ, 4 トランSPORT回路, 7A ディスプレイ, 8 マイクロプロセッサ, 9 コンディショナルアクセスインタフェース, 10



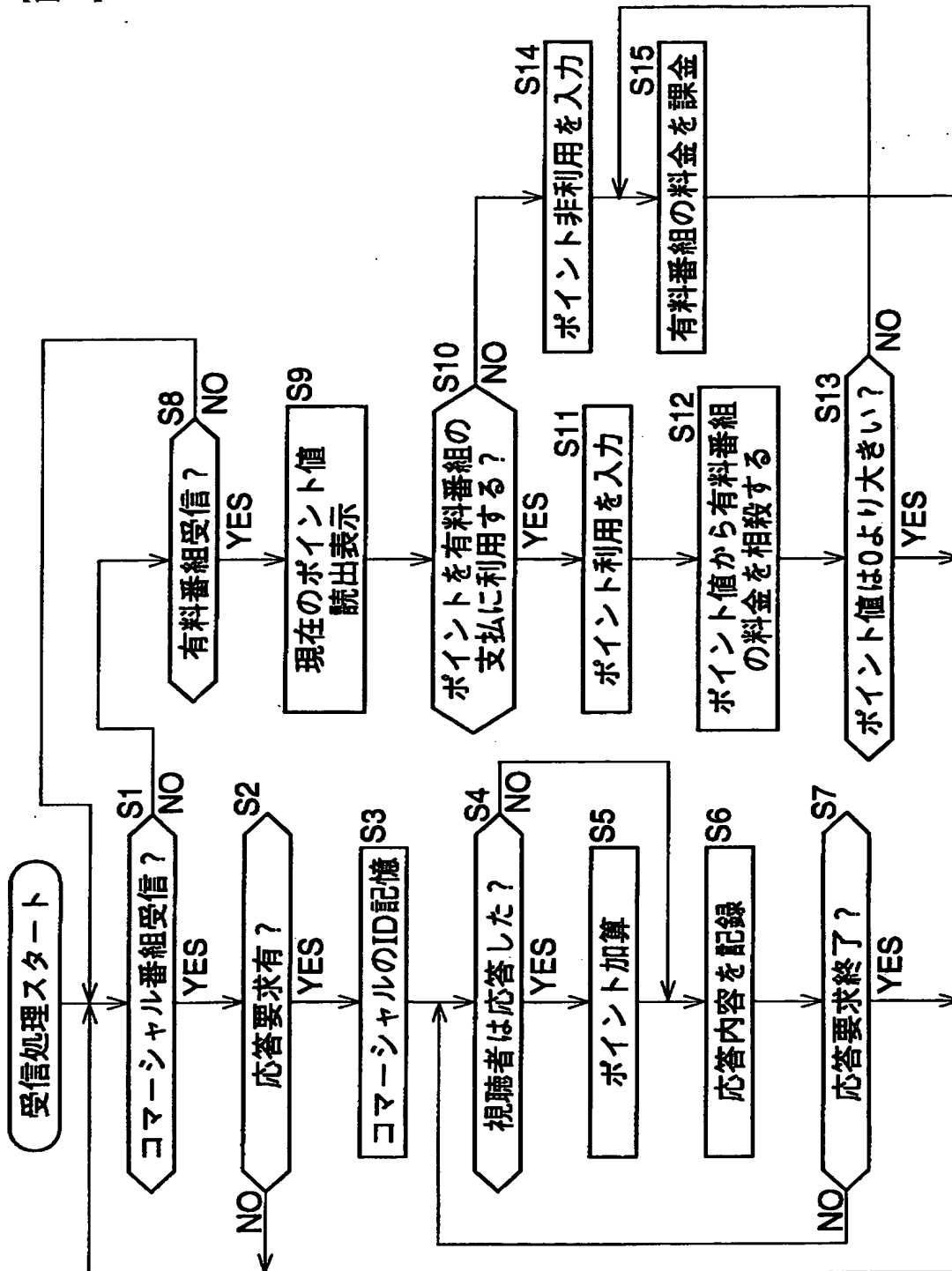
スマートカード, 11 モデム, 12 IR受信部, 31 リモートコントローラ, 32 テンキー, 33 IR送信部

【書類名】 図面

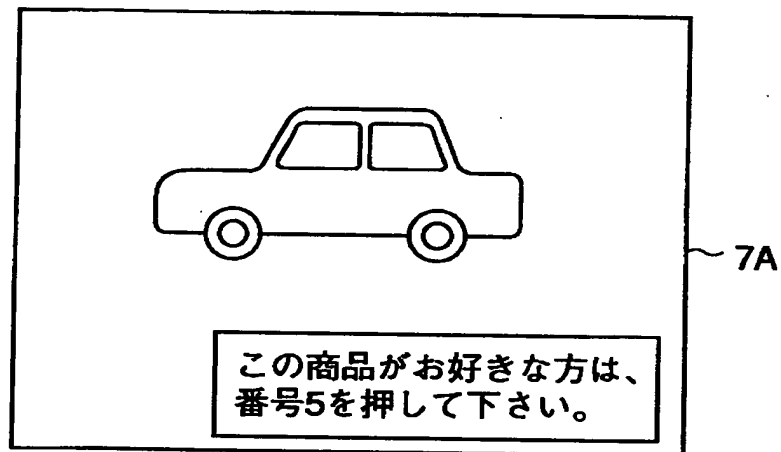
【図 1】



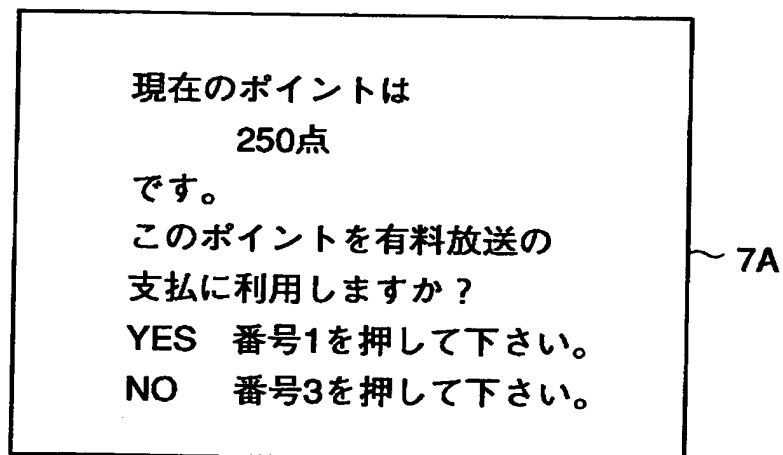
【図2】



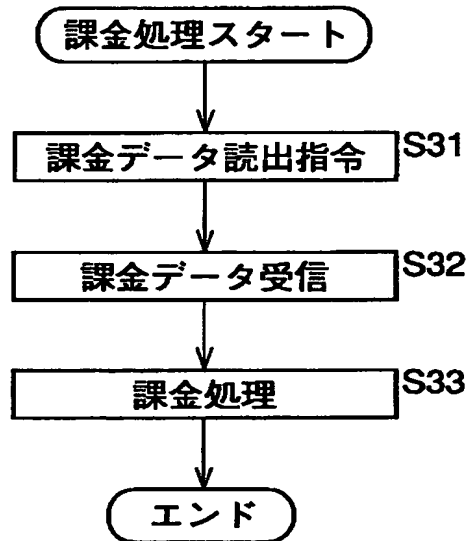
【図3】



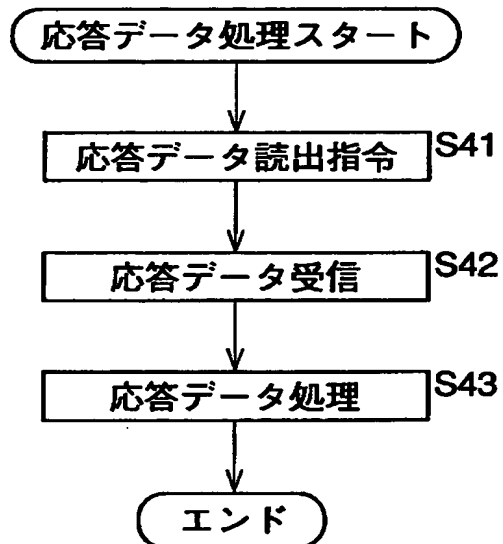
【図4】



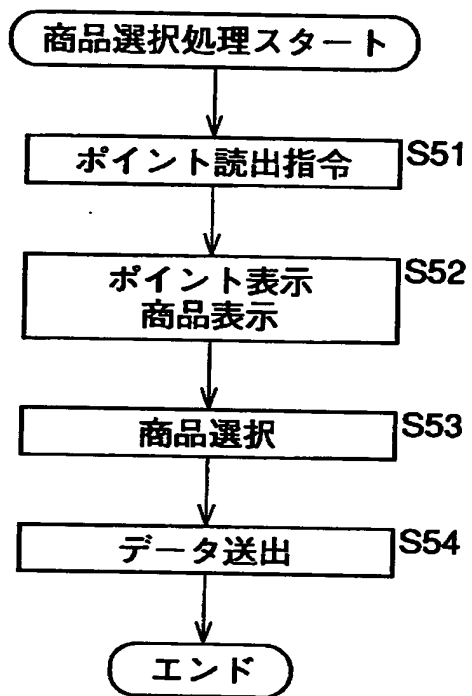
【図5】



【図6】



【図7】



【図8】

現在のポイントは

125点

です。

このポイントで選択できる商品は  
次の通りです。

- 1 カメラ
- 2 ビデオデッキ
- 3 CDプレーヤ

～ 7A

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 コマーシャル番組を視聴者に確実に視聴させるようにする。

【解決手段】 コマーシャル番組を放送し、ディスプレイ7Aに表示したとき、視聴者に応答を要求する。視聴者は、応答するとき、リモートコントローラ31のテンキー32のうち所定のキーを操作する。視聴者が、コマーシャル番組の応答要求に対応して応答したとき、スマートカード10にポイントを加算する。スマートカード10に記録されているポイントを利用して、有料番組を視聴できるようにする。

【選択図】 図1



【書類名】 職権訂正データ  
【訂正書類】 特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】  
【識別番号】 000002185  
【住所又は居所】 東京都品川区北品川6丁目7番35号  
【氏名又は名称】 ソニー株式会社  
【代理人】 申請人  
【識別番号】 100082131  
【住所又は居所】 東京都新宿区西新宿7丁目5番8号 GOWA西新  
宿ビル6F 稲本国際特許事務所  
【氏名又は名称】 稲本 義雄

特平 9-162405

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000002185]

1. 変更年月日 1990年 8月30日  
[変更理由] 新規登録  
住 所 東京都品川区北品川6丁目7番35号  
氏 名 ソニー株式会社